

大阪本社社会グループ
06(6291)0131(代)
大阪版FAX
06(6291)8143
購読のお申し込みは
0120-35-0844
(7:00～21:00)
購読・配達のご利用は
06(6227)0413
(平日10:00～18:00)
広告のご利用は
朝日広告社
06(6205)6961
朝日エリア・アド
06(6221)2923
折り込みは
朝日オリコミ大阪
06(6228)1290

地酒酌み交わし まちおこし談義

「一方通行」やめて人の輪交流

しにせ酒蔵の地酒を飲みながら、泉州を盛り上げる方法を語り合おう。泉佐野市の外郭団体、市公園緑化協会が7月から、同市日根野の北庄町酒蔵店で「まちおこし地酒BAR」を始めた。月と日の数字が並ぶ「2020年11月」の日に毎月開いていく「まちおこし」の輪を酒のサカナに、次につなげる交流を生み出すのがねらいだ。



(加戸博史)

7日夜に開かれた第1回の「地酒BAR」。昭和初期に建てられた酒蔵の2階にある「藏しっくホール」に約25人が集まった。泉佐野市在住のアーティスト、太工職さん(48)が約1時間、独自のまちおこし論を披露した。

関西空港対岸の人工海岸「マーブルビーチ」を「1銭も使わずに『世界名所』にする

酒の香りが漂う蔵で、独自のまちおこし論を語る太工職さん(中央)。7日、泉佐野市日根野の北庄町酒蔵店

る」がテーマ。「ビーチに敷かれた歩きにくい大理石を外国人に自由に踏ってもらおう」↓「見かけた地元の人には『ありがとう』と声をかける」↓「記念写真を撮る外国人が増え、世界的に注目が高まる」。突拍子もないが、妙に説得力のある「ダイク理論」にみな笑い転じた。この後の約1時間、参加者たちは互いに席を回り、酒をつぎあったり、名刺を交換したりした。

同市の女性(66)は「気持ち落ちるが、酒やおつまみはおいしい。話も面白く、とても得した気分」とにっこり。太工さんも「実のある『お話し会』になったと思えます」と満足そうだった。

市公園緑化協会はこれまで、古民家などで展覧やまちづくりをテーマにしたイベントを開いてきたが、講師が話し終ると「一方通行型」が多く、参加者の交流が深まらないのが悩みだった。

協会のスタッフが注目したのは、長野県小布町の酒蔵に入った米田出雲のセラウ・マリ・カミングスさんが01年から始めた「小布町ショウ」。毎月2回目の日に開かれ、地元の酒蔵を飲みつつ、講師の野郎達へ

泉佐野市にも先代創業の北庄町酒蔵店がある。3代目社長の北庄尚久さん(81)は、地域に開かれた蔵を自指し「ホールをくつった志の持

ち主、小布郎のような「BAR」を開きたいという協会の提案を快諾した。「この蔵から人の輪が広がっていくはずらしい」と言う。

協会事務局長の福島征三さん(88)は「参加者の間から、一緒にまちおこしを進めていく仲間が増えていけば、また新しい何かが生まれると思う」と期待している。

次回は8月8日午後6時半から、泉南市在住の会社経営者タウバー・ニールさんが「やっば泉州が好きやねん」をテーマに語る。受講料1500円(ドリンク付き)。問い合わせは同協会(072・475・8700)へ。